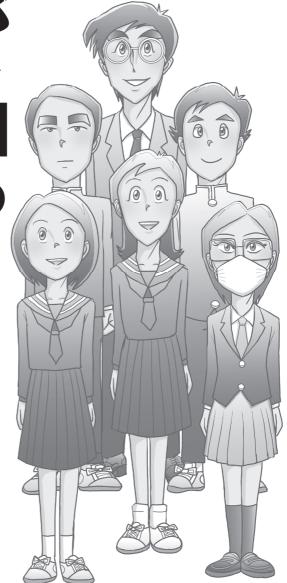
未来への学び



◈ まえがき

世界中の経済活動が著しく停滞する中で、いつ終焉するとも分からない異常事態に人類は懸命に打 この本を書いている間、新型コロナウイルスが人類を襲いました。

開策を模索している状況です。

人類史に残るようなこの大災害を誰が予測していたでしょう。

未来は本当に「予測困難」であるということを我々は思い知らされることになったわけです。

主体的に向き合い、他者と協働しながら課題を解決し、新しい価値を創造し、よりよい社会と幸福な 令和二年度から全面実施された新しい学習指導要領では、まさにこのような「予測困難な変化」に

人生の創り手となるための資質・能力の育成が求められています。

校に関わる全ての大人が、学習指導要領を幅広く共有し活用することによって、多様で質の高い学び

そして、その役割を学校だけに委ねるのではなく、学校と社会が連携・協働しながら、子どもや学

を引き出すことができるように期待されています。

多くの方々にもそれを伝えたいと考え、私なりの解釈をもとにストーリー漫画に仕立てました。 このような学習指導要領の理念に、私は大いに賛同しており、学校の先生方はもちろん、学校外の

第2巻の『まんがで知る未来への学び2』では、「自ら考え主体的に行動して責任をもって社会変 初巻の『まんがで知る未来への学び』では新しい社会へ対応する新教育課程の理念を解説しました。

革を実現する力」について、教師の協働する姿を通して描きました。

いたものであり、物語の完結編となっています。 そして、第3巻にあたる本書は、一人一人が社会の形成者として新しい価値を創造していく姿を描

かという問い合わせをよくいただきます。出典さえ明記していただければ問題ありませんので、ご自 これからの教育を考えていく上で大変参考になると思います。 また、本書のシリーズの一部をコピーして研修会・研究会等で参加者に資料として配布してもよい 今回は、各章の最後のページに「未来の教育を考える教養書」というコラムをもうけました。きっと、

ことができれば、作者として大変うれしく思います。

由にお使いください。インターネットでの画像の一部引用もかまいません。本書が多くの人に役立つ

前田康裕



問いを見いだす

自ら課題や問いを見いだすことの意義

9

苫野一徳『教育の力』 コラム◎未来の教育を考える教養書

● 28

情報を活用する

資質・能力の視点で見直す教科の学習 29

コラム◎未来の教育を考える教養書 2

山口周『ニュータイプの時代』 48



協働して学ぶ

コラム◎未来の教育を考える教養書 3

協働的な学びを促すタブレット型端末

49

広井良典『人口減少社会のデザイン』―――8

責任を持って行動する

69

コラム◎未来の教育を考える教養書
◆

アンドレアス・シュライヒャー『教育のワールドクラス』 88



社会のために自分の能力を活かす

ものを創り出す

変わった人物を尊重する価値観

109

井庭崇『クリエイティブ・ラーニング』-コラム◎未来の教育を考える教養書 6

128

大久保秀夫『在り方』

148

相手の行動や考え方から学ぶ ほかの人の役に立ちたいという考え方

129

コラム◎未来の教育を考える教養書

5

岩出雅之『常勝集団のプリンシプル』

108



未来を自ら生み出す

未来への学び一

| 149

安宅和人『シン・ニホン』-コラム◎未来の教育を考える教養書 ❸ 168

引用・参考文献 172

薬苑中学校



教務主任·音楽教師



木鞠守朗(52)



小田矢香奈(53)



ここまでの おもな登場人物とあらすじ

非常勤講師 らりょうすけ 吉良良介(53) 教職大学院生 スカース (スカル) 黒髪森炎(23)





学年主任•社会教師 まりだやめろう 無理田矢目郎(45)



りゅうなんかつろう 竜南勝郎(40)



さくらやま 桜山さやか(32)

薬苑町地域社会



2年1組生徒



2年1組生徒 おとなししず か 優藤秀美(14) 音無静香(14)



音無書店店主 おとなしげんき **音無元気**(42)



対立

ともできない」とあきらめていた。

気づく。しかし、「自分たちにはどうする? と学舎」の姿を見てさびれゆく町の現状に

まちづくり協議会会長 ふるい かたお 古井固男(74)



竹細工職人 がん こ げんぞう 岩個厳三(74)

ゆうとうひで み

孫と 祖母



無職



無職

もたちは、廃墟になりかけている「ふるさ スター制作のために町を歩き回った子ど 実習に入ることになった。美術の時間のポ 整備される。そこに大学院生の黒髪森炎が る薬苑町。中学校にはタブレット型端末が



2年1組生徒 つめこみつとむ

2年1組生徒 なげやりお

親子

無職

ない はしえ つぶやきかくこ ああとせくこ いんてりかこ 奈毛良江(77) 粒屋木書子(78) 阿亜斗作子(82) 印手理佳子(74)

爪込 勉(14) 奈毛槍男(14)

学舎」の復活に乗り出し始めた。 経営の限界を感じて引っ越しを決意する。 町の活性化を願っているが、町づくり協議 動かされた町の高齢者たちは、「ふるさと 越えて、一致協力して内容を一新させる。 感じた竜南は、総合的な学習のカリキュラ 会の古井会長と意見が合わずに対立。赤字 ム改善を提案。教職員は激しい対立を乗り しまう学校と自分自身の在り方に疑問を 変化を嫌って「例年どおり」で過ごして 商店街の本屋の店主である音無元気 方、優藤が作った町のポスターに心を

8

町の衰退を防ぐために活性化を模索す



問いを見いだす

自ら課題や問いを見いだすことの意義

















L

白川大学教職大学院 大学院生

くろかみしんえん **黒髪森炎(23)**



2年2組担任 国語教師 女子バスケットボール部 顧問

)ゅうなんかつろう **竜南勝郎(40)**



2年1組担任美術教師 女子バスケットボール部

副顧問 さくらやま

桜山さやか(32)

「まちづくりプロジェクト」評価規準

- 自分たちのまちとまちづくりに関する知識を広げる。
- ○正解のない問題を考えることの大切さが分かる。
- 問題の発見・解決のために情報を収集し整理・分析する。
- 相手や目的に応じて、考えをまとめ、表現する。
- 仲間の良さを生かしながら、協働して活動する。
- 積極的にまちづくりに参画する。









協働して活動する」か生かしながら 仲間の良さを



じゃないかし 難しすぎるん この子たちには

現在の状態の隔たり望ましい状態と 考えてみてくださ い状態と n

望ましい状態

隔たり 現在の状態 取り組むべき課題です問題を解決するために

教務主任 音楽科教師

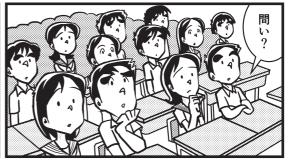
素 か せ た よ 麻加瀬多代(51



「問い」を作るこの子たちには 学習の経験がない 無理だ…

2年学年主任 社会科教師

^{むりだやめろう} 無理田矢目郎(45)



























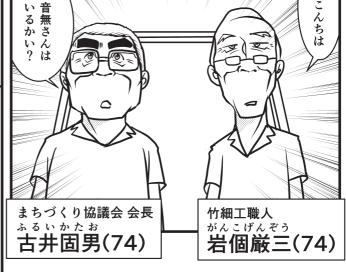


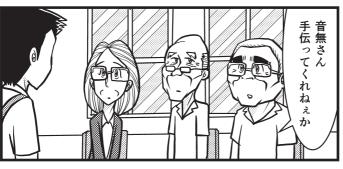














この町には

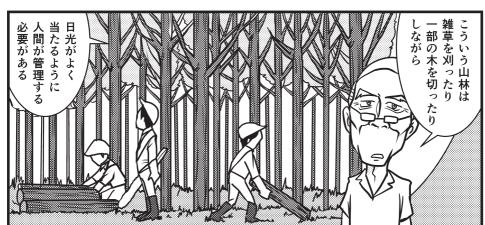
必要なんだ





















クト

動画が 地元自慢の

0



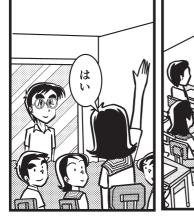














どうでしょうか?

提案してみては

町の人たちに

復活させる

アイデアを考えて

提案します

つながるプランを商店街の活性化に











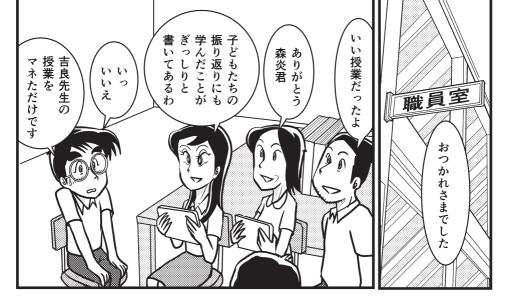












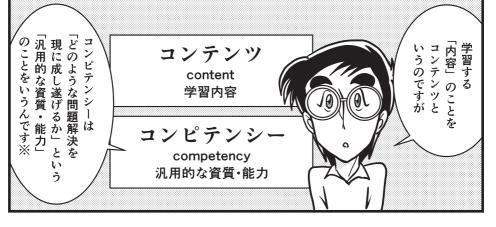


















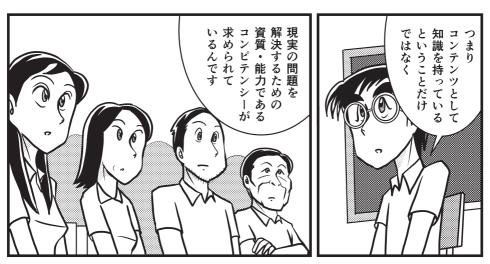




※奈須正裕著『資質・能力と学びのメカニズム』(東洋館出版社)







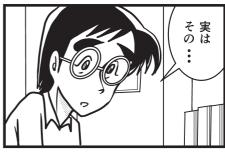
※奈須正裕著『資質・能力と学びのメカニズム』(東洋館出版社)













問いを見いだす

識やスキルを獲得していく「探究型の学習」の一つです。 めにチームを構成して取り組み、その過程の中で様々なアイデアを出して話し合いながら、必要な知 とは、学習者が決められた期間内に、調査研究、ものづくり、演劇といった共通の目的を達成するた 漫画の中で森炎君は、プロジェクト学習という方法で授業を展開していきます。プロジェクト学習

ることができるのです。 程の中で、子どもたちは「学びに向かう力」を高め、「多様なスキル」を身に付け、人間的に成長す て試行錯誤を繰り返しながら学びを深めていくための「学びに向かう力」が求められているのです。 きています。言い換えれば、テストの得点で計れる「結果としての学力」ではなく、高い目標に向かっ はなく、集団の知恵を生み出すために協働して問題を解決するような学力が求められるようになって して探究し、それによって新たに価値あるものを創造していくような学習が必要になります。その過 こうした力を育てるためには、与えられた問題を解決するだけではなく、自ら課題や問いを見いだ 未来が不透明になってきている現代社会においては、従来の工業社会で求められた画一的な学力で

● 自ら課題や問いを見いだすことの意義

のプロの人たちが考えたはずなのに……。」という問いを見いだします。 漫画の中で優藤さんは、「なぜ、ふるさと学舎はさびれてしまったのでしょうか。コンサルタント

優藤さんのこの「問題の発見」が「問題の解決」へと向かう学習につながっていくわけです。

「問題」ということについて、独立研究者・著作家である山口周氏は次のように述べています。

します。「望ましい状態」と「現在の状態」に「差分」があること、これを「問題」として確定 問題解決の世界では、「問題」を「望ましい状態と現在の状況が一致していない状況」と定義

するということです。

を定義することができない、ということなのです。 ないということになります。つまり「ありたい姿」を明確に描くことができない主体には、

したがって「望ましい状態」が定義できない場合、そもそも問題を明確に定義することもでき

ような学習が求められるのです。 理想の状態を思い描くような「構想力」を高めるためには、子どもたち自らが課題や問いを見いだす 教師が常に問題を出す授業では、子どもたちは「ありたい姿を描く主体」にはなり得ません。常に

*

山口周著『ニュータイプの時代――新時代を生き抜く20の思考・行動様式』ダイヤモンド社、2019年

教育の力

苫野一徳 (講談社現代新書)



著者の苫野一徳氏は教育哲学の研究者であり、熊本大学の私の同僚でもあります。本質に基づいた著者の主張は、前例踏襲主義に陥りやすい教育界に新鮮に響くものがあり、従来の日本の教育を見直すきっかけともなっています。

本書は3部構成になっており、第1部では、「学びの個別化・協同化・プロジェクト化」を中心にして、「『よい』学び」について、第11部では、学校空間と教師の資質について触れながら「『よい』学校」について、第111部では、教育からつくる社会の構想とビジョンについて「『よい』社会」について、それぞれ具体的に考えていきます。

とかく「ゆとり教育、是か非か」といった二項対立的な不毛な議論に陥りがちな教育 の世界において、多くの人々が関わり合って未来の教育を考えていくための哲学的視 座を与えてくれる良書です。